

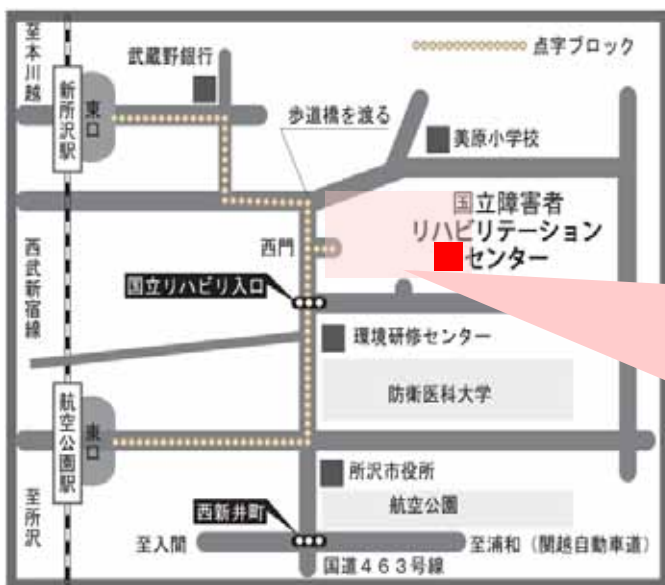
## 福祉機器シンポジウム

～生活の中での機器活用の普及に向けて～

シンポジウムの初開催から4年が経ち、現在、認知症のある人が実際に家庭で機器を使う段階での調査・研究が進められています。この中で、認知症のある人の生活自立に既存の機器や開発機が役立つ可能性が示されてきた一方、機器活用の普及に向けては、機器の導入や使用の習慣化、現場で蓄積された知恵の共有化、必要となる技術開発など、認知症ユーザー独自の多くの課題が見えてきています。今後、認知症のある人の地域での暮らしに機器を役立てていくためには、これらの課題に各分野から総力を挙げて取り組んでいくことが必要です。

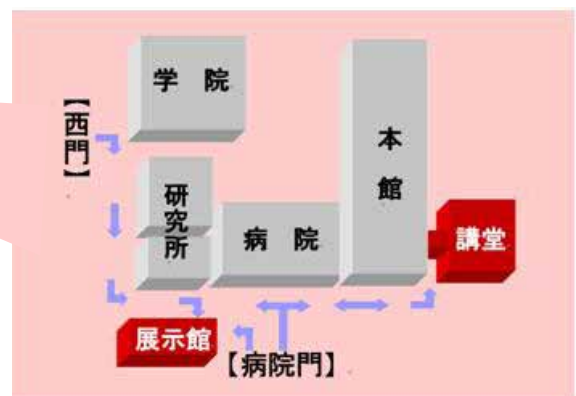
今回のシンポジウムでは、**認知症のある人の生活実態と認知機能の低下による障害を踏まえた上で、社会全体でこの課題にどのように取り組んでいくかを議論したい**と思います。皆様、ぜひ、ご参加ください。

開催日時	2010年2月28日(日) 13:00～16:30 (開場:12:00)
会場	国立障害者リハビリテーションセンター講堂 ( <b>学院講堂とは異なります。ご注意ください。</b> )
主催	国立障害者リハビリテーションセンター研究所
対象	一般、当事者、家族、支援者、研究者
会費	無料( 交流会 参加費:500円)



### 国立障害者リハビリテーションセンター

〒359-8555 埼玉県 所沢市 並木4-1  
西武新宿線 航空公園 又は 新所沢駅から 徒歩15分



### 申し込み・問合せ先

住所: 〒359-8555 埼玉県 所沢市 並木4-1 電話: 04-2995-3100 (2523)

Eメール: [dementia@rehab.go.jp](mailto:dementia@rehab.go.jp) FAX: 04-2995-3132

担当: 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部 石渡

# プログラム

開会挨拶 (13:00 ~ 13:05)

## 第一部

(13:05 ~ 14:15)

種村 留美 (神戸大学 医学部 保健学科)

『認知機能障害の評価と生活への介入』

安藤 達也 (仙北医談会 当事者家族)

『機器活用による1人暮らしのサポート』

休憩 (14:15 ~ 14:30)

<パネルディスカッション>

テーマ: 生活の中での機器活用の普及に向けて

司会: 井上剛伸

パネリスト: 種村留美、安藤達也、大島千帆、星野剛史、小野美登里、石渡利奈

大島 千帆 (早稲田大学人間科学学術院)

『認知症高齢者の住まいの工夫の実態』

星野 剛史 (株式会社 日立製作所 デザイン本部)

『認知症者に役立つ家電製品のインターフェース』

井上 剛伸 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部)

『パートナーロボットによる情報支援の可能性と課題

プロトタイプ試用を通じて』

石渡 利奈 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部)

『支援機器の適用事例から見る導入時の課題』

小野 美登里 (福岡市介護実習普及センター)

『市民に向けた介護知識・技術、および福祉機器の普及事業』

閉会挨拶 (16:25 ~ 16:30)

## 第二部

(14:30 ~ 16:25)

交流会 (16:45 ~ 17:45)

## 「認知症のある人の福祉機器展示館」公開 11:30~12:50

当日、センター敷地内の「認知症のある人の福祉機器展示館」を一般公開します。「服薬の時間を伝える薬入れ」「ボタンを1回押すだけでかかる電話機」など、認知症のある人の暮らしを支える国内外の福祉機器約80点を展示しています。福祉機器を見て、触って、体験してみたい方は、ぜひこの機会にご来館下さい。時間内は自由にご覧いただけます。

## 申し込み方法

下記の「申し込み書」の受け取り(お一人様につき一枚)をもって、お申し込み完了とさせていただきます。

参加を希望される方は、下記の内容をお書き添えの上、上記の宛先まで、Eメール、FAXまたは郵送でお送りください。

〆切 2月24日 (期日を過ぎた場合は、直接会場まで、お越しください)

あてはまるものにチェックしてください

フリガナ 氏名			立場 (複数 回答可)	家族 ソーシャルワーカー 看護師 一般	当事者 医師 その他(	作業療法士 ケアマネージャー 開発者	言語聴覚士 ヘルパー 研究者 学生
連絡先	住所	〒	電話	FAX	Eメール	@	

交流会 参加する 参加しない

情報保障 (ご相談に応じます) 要約筆記が必要 手話通訳が必要 その他( )